

子育て支援・少子化対策県民会議 第1回基本計画策定部会での主な意見

1 若い世代から選ばれる雇用環境の整備

- ・こども政策の充実は就労問題の改善につながり、就労問題の解決が結婚、出産に繋がっていくという見方も必要なのではないかと思う。
- ・男性も女性も仕事と家庭を両立させるためには企業が、長時間労働や残業時間を減らし、生産性の高い働き方ができるような対策を行う必要があり、例えば、デジタル化や無駄な仕事を洗い出す等により、効率化を進めることが大事。
- ・女性がやりがいを持って働き続けるためには、会社がいろいろなキャリアプランがあることを描いてあげることが大事。例えば、今まで女性がいなかった部署に女性を配置することや役職登用を行うことで、女性自身を鍛えていくことも企業として非常に重要なことではないか。
- ・パパ、ママが育児を同時に始めることで、育児レベルは同じ状態になると思うので、パパの初期の育休の取得は大事だと思う一方、富山県は製造業が多く、工場等では育休が取りにくい場合もあるため、例えば、夕方のこどものお風呂の時間帯だけ家にいるとか、週に1回だけでも仕事を休んで一緒に育児をする等、会社の事業形態に合わせた柔軟な育休の制度があると良いのではないか。
- ・夫婦が共に家事育児を行う姿は、将来世代の性別役割分担意識の形成に影響を及ぼすため、共に家事育児を行う姿をこどもに見せることが重要ではないかと思う。
- ・各企業のワークライフバランスに関する制度について、社員が利用しやすくなるような企業内での風土の醸成も必要なのではないか。

2 若者・女性の転入・定着の促進

- ・県内企業が若者に選ばれる企業になるためには、企業のトップの意識改革が非常に大事。女性活躍、あるいは雇用環境について声高に叫んでいるが、若い世代にとってはそれが当たり前になってきていて、企業がいかにさらに付加価値をつけることができるかが、大きな鍵ではないかと思っている。
- ・世間では「若い女性が流出している」と良く言われているが、「若い男性も女性も県外に出ているが、男性の方が流入数は多い。」など、細かい情報をもとに分かりやすく説明をしていく必要があると思う。「女性流出」と強調されると、県外流出がマジョリティで、富山県に残る方がマイノリティであるかのように、当事者である若い女性が誤った受け取りをする可能性がある。
- ・県内の学生は県外志向が非常に強いが、県内で受け皿があれば学生の就職先の幅も県内企業に対して広がるのではないか。

3 ライフプランを考える機会の充実

- 中学・高校の時点から、自分がどんなライフプランを描いていくのか、何に価値を置くのかということの醸成させることが必要である。若い世代の県外流出への対応として、ふるさと教育ではないが、どれだけ地元へ愛着が持てるのかということも含めた、ライフプランにも着目したら良いのではないか。
- 若い世代が漠然と結婚や出産に対する不安を抱えているのは、そういう世代との関わりが少ないことで、この先どうなるのか想像できないせいではないか。高校生や大学生、若い世代が実際の今の子育て世代と関わる機会を創出することで、「自分も将来こういうふうになりたい。」と考える若い世代が増えるのではないか。
- 若い世代に子育ての現場を知ってもらうという試みは非常に重要である。こどもがいる世帯とこどもがいない世帯の数がアンバランスになってきている。同時に、少子化が進み、一人っ子世代の比率も増え、自分より小さい子と関わったことがない世代が増えている。そのことが要因で、将来自分が子育てするイメージが出来なくなっているのではないか。将来的にこどもを持った場合どうなるのか、プラスのイメージを持つことができれば、こどもを持つことに対する考え方も変わるのではないか。
- こどもの子育てや結婚に対するイメージが悪いのは、親がどのようにこどもに伝えているかだと思うので、働くことや子育ての楽しさをこどもに見せることが大事。
- 富山県はたくさんの政策を実施しているが、なかなか浸透しておらず、悪い部分ばかりがニュースで取り上げられていて、若い世代が「子育て大変だな」という悪い印象を持ってしまっている部分があるが、子育てを通して素晴らしい経験ができることや、楽しい部分もたくさんあるので、そういったところの見える化を大事にしていけたら良いと思った。

4 こども・若者・子育てを社会全体で支え合う気運の醸成

- こどもたちに対して「この富山県であなたたちがずっと幸せに暮らせるように応援しているよ」というメッセージが伝わることが大事。
- パパの育休関連の動画を見ていた際に、「孫育休」について紹介されていたが、世代を超えた子育てを考えていく時に良い取り組みだと感じた。
- 孫育て、孫育休制度については非常に興味深く、進めていく必要があるとは思いますが、孫育てを熱心にやっている祖父母、特に自分の娘の孫育てをしている祖母の幸福度が下がりやすいという傾向があり、難しい側面がある。
- 子育て支援等の取り組みについて、県内企業、富山県はアピールの仕方、周知の仕方が少し弱いと感じている。
- こどもや子育て家庭のための施策と、働き方や経済的な課題等の労働経済施策の大きく2つの柱があるが、この2つは対立するものではなくて、循環し影響し合うものであり、そうした観点から議論を深める必要がある。

5 経済的負担の軽減

- ・結婚しない、結婚を躊躇するのは、経済的な要因が一番大きいということは、ほぼ明らかであり、収入をどう増やすのか、支出を軽減するのか、あるいは行政的に給付を行うのか対策を検討する必要がある。
- ・県内各市町村でいろいろな子育て施策をきめ細かく取り組んでおり、市町村の各取組みを、どのようにしてスタンダード化していくのかが大事。具体的には、こども医療費の18歳まで無料化、給食費の無料化については、県内各市町村も意識している。

6 こども・若者、子育て当事者のライフステージに応じた切れ目ない支援

- ・人生の土台を作る上で、非常に根っことなる部分で0歳から6歳という時期が大切だと感じている。思いや自分の願いなど、十分な言葉、明確な言葉でなかなか言えない年代のこどももいるため、声にならないこどもの心も、表情や身振り手振りを踏まえながらこどもたちのすべてから受けとめていかなくてはならないと思っている。
- ・子育てをする親世代も、こどものことを考え過ぎるあまりに悩んだり迷ったりしてしまうことが多いと感じている。子育てをする側も笑顔でいられることが大切であり、子育てする側のケアの施策があると嬉しい。
- ・幼児教育や保育の充実について、引き続き保育士の専門性の向上が図られる取組みをお願いしたい。
- ・保育幼児教育の施設は、子育てに関するたくさんの喜びや、大変さも含め、その思いを共有できる地域の子育てのパートナーとして、大きな役割もあると思っている。様々なネットワークの中、保護者の皆様の相談に対応できる機関であることを今後も大切にしていきたい。
- ・若い世代の方々が、魅力ある保育士の仕事に興味を持っていただき、志していただけるようなPRを行っていく必要がある。
- ・今回の基本計画の検討の過程で、県民への意見聴取が非常に重要な機会になるのではないかと考えている。こどもはもちろん、これから親になる若者、子育てをしている家庭等の意見をどのように聴取していくのかが重要である。

7 様々な困難を抱えるこども・若者への支援や居場所づくりの推進

- ・こども食堂は、年に数回しか開催できないなどの課題があるが、継続性が大事であり、こども食堂が当たり前ここにありよというふうになればよいと思う。こども食堂を通じて、貧困対策はもちろん、3世代交流や共食など、みんなでコミュニケーションをとることが大切だと思う。
- ・貧困対策や不登校対策などの取組みは難しい問題ではあるが、富山県ももう少し応援していることを、皆さんに知ってもらえることが大切ではないかと感じた。